

3 - 1 草原利用・環境教育等の推進に関する基本的考え方（要約）

草原再生を進める上での「草原利用・環境教育等の推進」の位置づけ

- ・ 草原再生は地域の農業・畜産業の力によるところが大きいですが、同時に多様な人々のかわりも必要である。
- ・ 草原という自然生態系とそれを維持するしくみ（農業を始めとする人のかかわり）、地域の生活文化などを学習するとともに、いったん損なわれた草原を再生させることのむずかしさを理解するために、草原という場を活用して、環境教育や自然体験、エコツアーなどを行うことは、幅広い人々の関与を促す上で有効と考えられる。
- ・ それらを通じて、都市住民などに対し、草原保全・再生への合意を得るとともに、保全・再生への参加や協力など積極的な関与を求めていく。また、阿蘇の農業・畜産業者に対しても、草原の価値を再認識してもらい、草原保全・再生への合意を得るとともに、維持管理に従事することへの自信や誇りにつなげていく。
- ・ それをきっかけに、さらに以下のような効果がもたらされることを目指す。
 - * 草原の保全・再生へ向けて、広く国民的な合意が形づくられる
 - * 「草原再生」の事業そのものが、自然の複雑さ・奥深さや人のかかわりのだいじさなどを理解する環境教育の場となる
 - * 地域イメージの向上をもたらし、あか牛肉販売の拡大を始め、地域産業の活性化にもつながる
 - * 幅広い人々が阿蘇にやって来ることによって、消費活動が誘発され地域経済が活性化する

「草原利用・環境教育等の推進」にあたっての考え方

上記のような位置づけの下で、より大きな効果を生み出すために、かかわるすべての人々の協力により、以下のような進め方が必要と考えられる。

<前提として>

- ・ 幅広い人々の草原への関心を喚起し理解を求める
- ・ 関係者（地権者、産業振興関係者など）の了解・合意の下で進める
- ・ さまざまな実施主体による多方面からの取り組みにより実践していく

<進め方に関して>

- ・ 草原生態系と維持のしくみを、歴史を含めて総合的に理解できるようにする
- ・ 地域環境への負荷をできるだけ少なくし、持続可能な利用を進める
- ・ 地域の人々や1次産業が積極的にかかわる（地産地消、案内人など）
- ・ 牧野組合どうしの連携や地域内の産業間のつながりを深めるきっかけとなるようにする
- ・ 利用者に草原保全・再生への参加を促し、幅広い支援・協力を求める
- ・ これらの組み合わせにより、阿蘇独自の環境教育等の方法を創り出す

<必要な仕組みや拠点づくり等に関して>

- ・ 草原再生への参加・協力の仕組みをつくり広める（ボランティアによる支援、協力金、産品購入など）
- ・ 拠点整備等を通じて、学びの機会の充実や情報発信機能の強化を進める（プログラム、案内人システム、情報発信拠点、施設整備やネットワーク化など）